

第 6 回 デジタル田園都市国家構想実現に向けた
地域幸福度（Well-Being）指標の活用促進に関する検討会

地方公共団体における 地域幸福度（Well-Being）指標活用推進について

2024/06/24 デジタル庁

本日の議論ポイント

■ リファレンスロジックツリーを活用したロジックツリー作成支援

リファレンスロジックツリーはどのように在るべきか。
ロジックツリーの活用に関する自治体支援をどう進めていくべきか。

■ 指標導入・活用団体支援

指標活用の熟度に合わせた指標活用支援体制はどうあるべきか。

■ 提供データの改善

提供データについてどのように改善を進めていくべきか。

■ ワークショップ実施支援

共助を促進するためのワークショップ開催支援について、どのように改善を進めていくべきか。

■ 地域幸福度（Well-Being）指標を扱える人材の育成

指標活用の更なる促進に向け、指標の政策への活用やワークショップファシリテーションができる人材の育成をどう進めていくべきか。

■ 複数自治体にまたがるエリアへの対応

複数の自治体エリアにまたがる指標の活用に向け、計測や分析をどのように進めるべきか。

これまでの活動を踏まえた本年度の取組

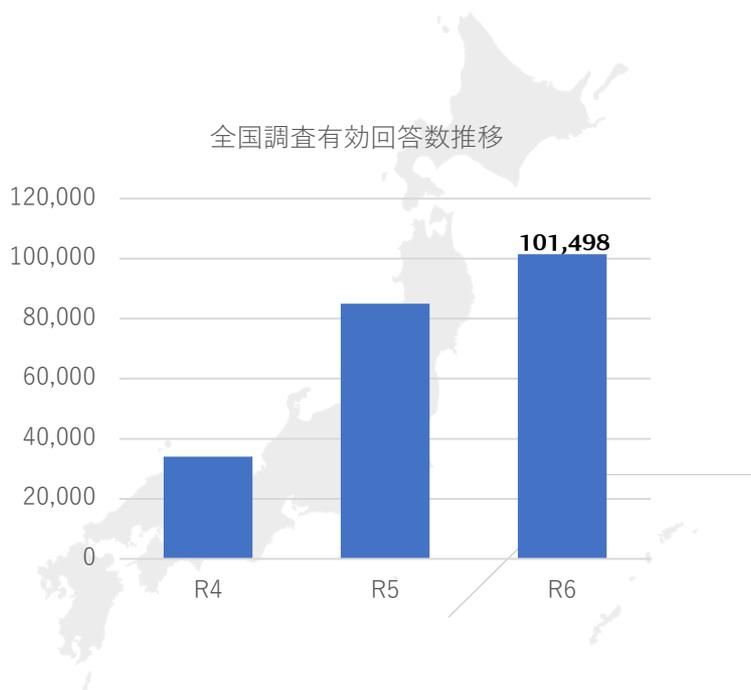
- デジタル田園都市国家構想交付金採択団体の協力の下、令和4年から活用を開始し本年度で3年度目となる。
- これまでの本検討会での議論や自治体を対象に実施した調査結果等に基づき、本年度も地域幸福度（Well-Being）指標の活用を支援・推進する。

課題		取組内容	記載ページ
指標の継続と充実	<ul style="list-style-type: none">● 指標設計方針の継続により経年比較の実現● 更なるデータの充実化	<ul style="list-style-type: none">● R5年度開発指標の継続収集● 全国パネルデータ、分析可能団体の増	P 4
自治体の負担感	<ul style="list-style-type: none">● アンケート実施・分析の負担感をデジタル化により軽減● 相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none">● 指標サイトの充実化<ul style="list-style-type: none">・ 分析ツール追加・ アンケート機能追加● 相談窓口の継続設置	P5～8
活用者の拡大	<ul style="list-style-type: none">● 自治体に対する認知度の向上● ワークショップ開催支援● 住民等様々なステークホルダーへの活用促進	<ul style="list-style-type: none">● 媒体を活用した周知の徹底● ファシリテーター派遣制度構築・実施● 住民等対象ワークショップの開催	P 9～11
活用の発展	<ul style="list-style-type: none">● デジタル施策継続に向けた活用● 指標活用の高度化への対応	<ul style="list-style-type: none">● リファレンスロジックツリーの作成・公開● KPI計測アプリの検討	P12～14

地域幸福度（Well-Being）指標全国アンケート調査の継続実施・充実

- 本年度は令和5年度と同じ標準アンケート（50問）で全国調査を実施し、経年比較を可能とする。
- 調査はインターネット利用者を対象に実施し、サンプル数は昨年度の約8.5万人から10.1万人へ増加。
- サンプル数の少ない団体は分析が難しいという課題を踏まえ、調査設計は有効回答数が100以上確保出来る団体数を増やすことに配慮。
- 最新の集計結果は6月末を目途にリンク先からダウンロード可能 → <https://well-being.digital.go.jp/>

○全国調査サンプル数の推移



○R6アンケート調査設計

項目	調査概要
調査内容	<ul style="list-style-type: none">100以上確保できる自治体の数を極大化するため、母集団構成比による回収は考慮せず、自治体の規模に応じて回答数の目標値を設定した調査政令指定都市で最低1,000、東京23区で400、令和3～5年度補正デジType2/3/S採択自治体及びスーパーシティ・デジタル田園健康特区で400、その他自治体は100を回収目標として設定
調査手法	インターネット調査
対象地域	全国
対象者条件	18歳～89歳の男女
設計サンプル数 (回収目標数)	100,000
回収サンプル数 (有効回答数)	101,498
対象自治体数 (うち回答数100以上)	684団体 (668団体)
設問数	51問 (必須50問 + オプショナル設問1問)
調査期間	2024年5月14日 (火) ～2024年5月20日 (月)

地域幸福度（Well-Being）指標サイトの公開

- 令和6年3月末、地域幸福度（Well-Being）指標サイトを公開
- 全国調査結果に加え自治体の独自調査結果も無償で可視化。指標を積極的に活用する自治体の分析・評価を支援する。
- 指標活用に必要なツールや各団体の指標活用事例を掲載

ダッシュボードURL <https://well-being.digital.go.jp/dashboard/>

【ダッシュボード】

表示中のデータ選択条件

都道府県を選択 市区町村を選択 調査種別を選択 年度を選択

選択中の地域のアンケート回答者情報

地図を表示・地点を絞り込む 年代を絞り込む 性別を絞り込む

回答者数 **808**

年代

性別

ダッシュボード切り替え

ダッシュボードメニュー

- 比較自治体を追加
- 比較年度を追加
- 比較のポイント
- お気に入りを表示
- 表示中の地域をお気に入りに登録

カテゴリー別 (リーダーチャート) 主観データ (アンケート) 客観データ (オープンデータ) 幸福度・生活満足度 独自設問

カテゴリー別

カテゴリー別

因子	主観	客観
医師・福祉	48.2	62.2
買物・飲食	30.9	46.2
住宅環境	72.1	55.1
移動・交通	33.0	42.4
遊び・娯楽	21.8	41.7
子育て	48.4	48.5
初等・中等教育	44.1	51.7
地域行政	44.6	54.7
デジタル生活	42.9	30.6
公共空間	44.5	34.1
都市景観	34.3	46.2
事故・犯罪	39.9	63.6
自然景観	65.8	54.9

【使いこなす】

使いこなすページにツールや事例を豊富に掲載

関連動画を見る

研修動画を公開しています。

地域幸福度 (Well-Being) 指標 オンライン説明会 (Vol.1)

地域幸福度 (Well-Being) 指標 オンライン説明会 (Vol.2)

地域幸福度 (Well-Being) 指標 オンライン説明会 (Vol.3)

Vol.1「特別対談編」(25分)

Vol.2「指標分析編」(37分)

Vol.3「ワークショップ編」(32分)

自治体職員向けに行ったオンライン説明会の様子を公開しています。

地域幸福度 (Well-Being) 指標 活用事例

2023年5月18日 令和5年度 地域幸福度 (Well-Being) 指標活用説明会 (68分)

活用方法についてもっと知りたいのですが 参考になる事例はありますか？

下記に参考となる自治体・団体のユースケースを紹介していますので、ご参照ください。

参考となるユースケース

地域幸福度 (Well-Being) 指標を活用した分析・統計作業を行う際に参考となるユースケースをご紹介します。

浜松市

会津若松市

鎌倉市

浜松市 (PDF 4.2MB)

会津若松市 (PDF 3.7MB)

鎌倉市 (PDF 3.4MB)

分析ツールの追加・改善により指標活用・分析を支援

- 指標から市民の幸福感（Well-Being）を高める因子を俯瞰したり、探し出したりするための分析ツールを指標サイトを通じ提供しているが、表示のわかりやすさ、データの扱いやすさ、分析のしやすさを改善する。
- 指標開発者であるSCI-Jの実証で有効性が確認された分析ツールを追加することで、利用者が主体的に指標活用・分析を進めることを支援する。

【指標サイト追加機能（案）】

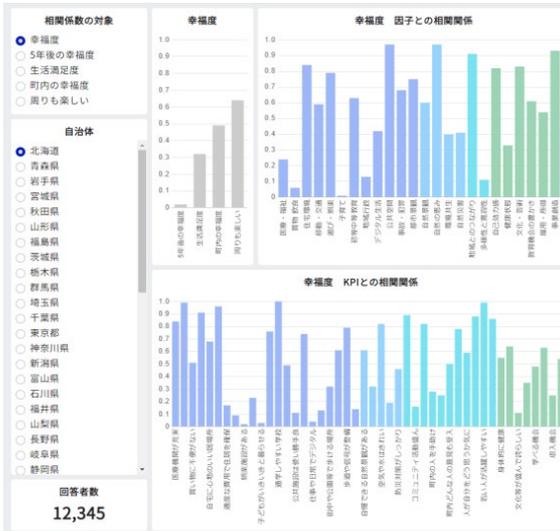
- 任意の自治体を選択し、幸福度・満足度と主観データとの間の相関係数をグラフ表示する
- 任意の自治体を選択し、因子の値に関する客観データと主観データを軸とした散布図を表示する
- 都道府県が実施した個別調査の主観データを表示する
- 任意の自治体を選択し、データをCSV形式、png形式、PDF形式でダウンロードする

画像はイメージです。
実際のシステム画面とは異なる場合があります。

〔相関関係グラフ（案）〕

〔散布図（案）〕

PC版



スマートフォン版



PC版



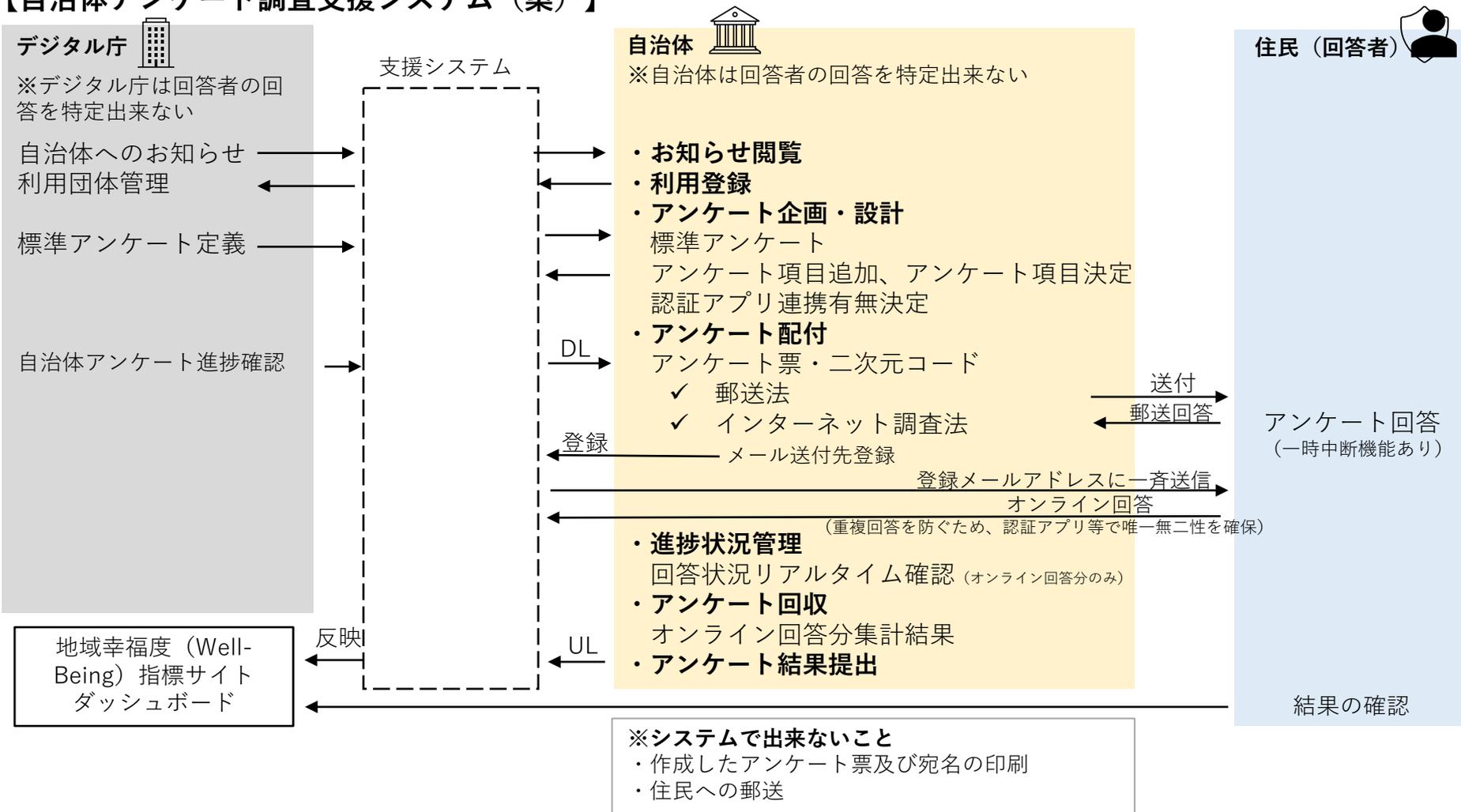
スマートフォン版



アンケート機能の追加（デジタル化）により自治体負担を軽減

- 自治体の地域幸福度（Well-Being）指標アンケート実施を支援するためのアンケート機能をWell-Being指標サイトに追加し、自治体のアンケート実施を支援する。共通サービスの提供により、アンケート業務における自治体の作業負担及び実施コスト削減並びに回答する住民の負担を軽減する。あわせて自治体の選択により本人性、一人一票であることを正しく確認し、真正性・公平性を保つ機能を活用することも可能とする。
- Well-Being標準アンケート（50問）に加え、自治体の独自設問も設定可能とする。

【自治体アンケート調査支援システム（案）】



アンケート調査支援システム（オンライン回答画面イメージ）

【PC版】

Well-BeingアンケートR6

利用団体管理者が案内文を自由に設定可能

デジタル施策に關しましては、市民の生活の質の向上に資することで、地域の幸福度（Well-Being）の向上に繋がることが必要とされております。現在の地域の幸福度（Well-Being）を測定し、今後のデジタル施策に生かすため、次のとおり「令和5年度地域幸福度（Well-Being）測定アンケート」を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。
なお、アンケートの設問は、一般社団法人スマートシティインスティテュートが主催し、デジタル庁がデジタル田舎都市国家構想の実現に向けて全国の自治体での活用を推進しているものです。一部設問については、本市の特性に合わせ、変更・追加しております。

1 回答者について 2 ①地域における幸福度・満足 3 ②生活環境 4 ③地域の人間関係 5 ④自分らしい生き方 6 完了

全体のステップをあらかじめ示し、回答の進捗状況を把握しやすくする

回答者について

ご回答者の性別 必須
男性

ご回答者の年齢層 必須
10代

ご回答者の居住地域を都府県
111-1111

プルダウンで選択

あなたの町内（集落）の人々は、大抵において、どれくらい幸せだと思いますか
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いづれかの数字を1つだけお答えください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。

5件法、11件法に対応

とても幸せ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 とても不幸

自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う
非常にあてはまる 5 4 3 2 1 全くあてはまらない

回答選択箇所は色が変わる

前へ 次へ

【スマートフォン版】

Well-BeingアンケートR6

+ アンケート概要

1 2 3 4 5 6 7

①地域における幸福度・満足度 サンプル

幸福度・満足度

現在、あなたはどの程度幸せですか
必須
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますが、いづれかの数字を1つだけお答えください。

10(とても幸せ)

11件法はプルダウンで選択

あなたの町内（集落）の人々は、大抵において、どれくらい幸せだと思いますか
必須
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いづれかの数字を1つだけお答えください。ここでは自分の同居家族は除いて考えてください。

10(とても幸せ) サンプル

自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う 必須
非常にあてはまる 5 4 3 2 1 全くあてはまらない

前へ 次へ

画像はイメージです。実際のシステム画面とは異なる場合があります。

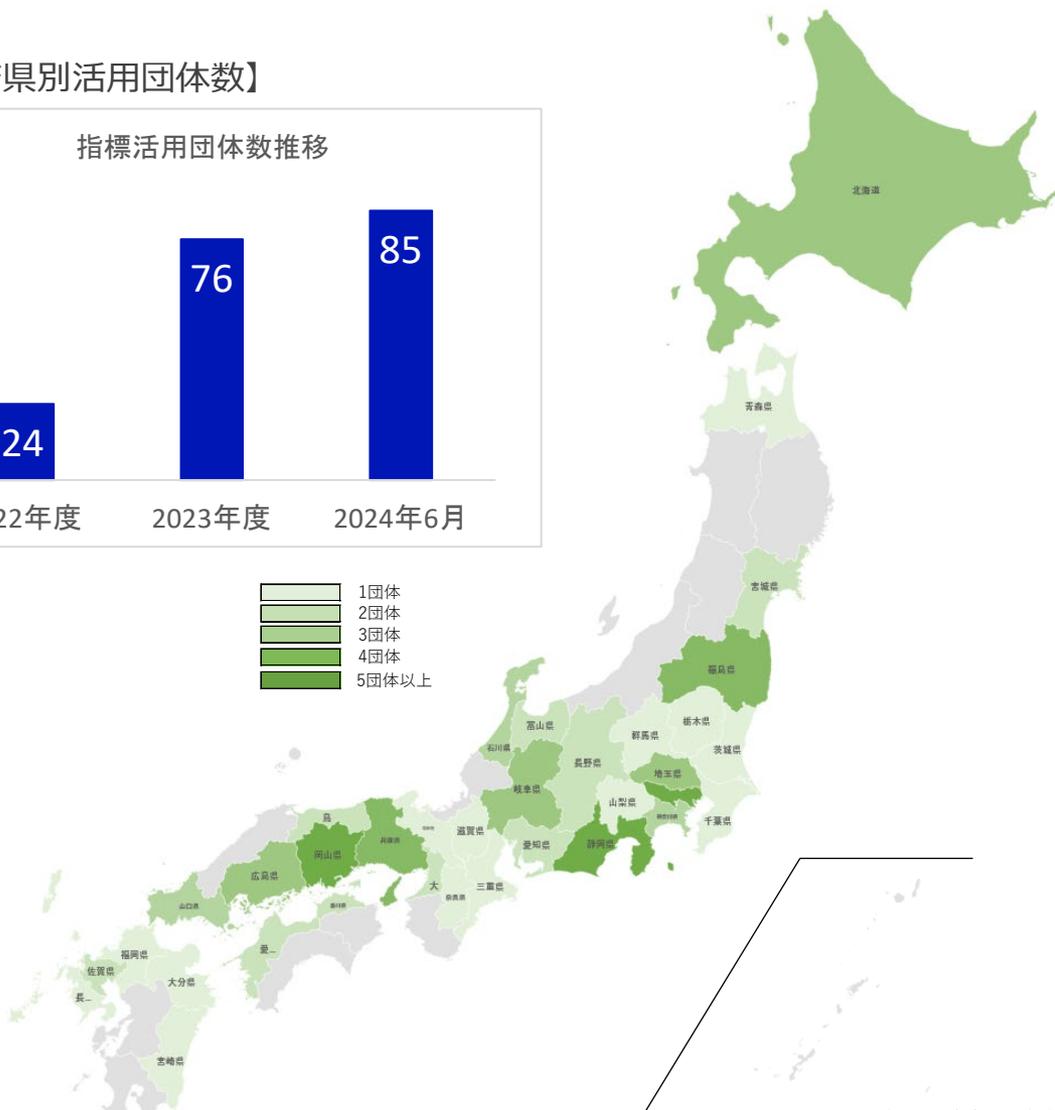
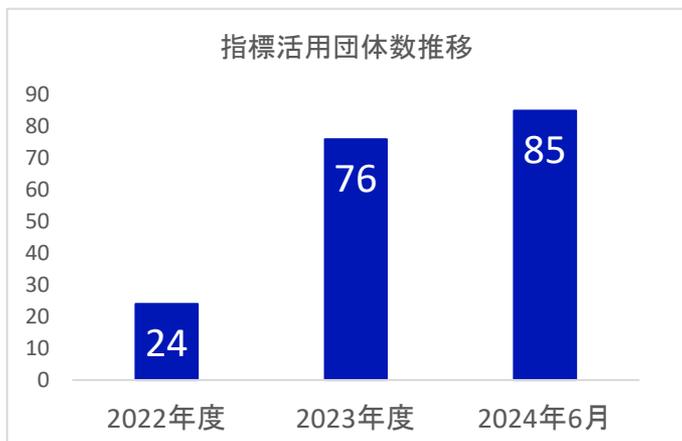
ボタン押下により内容閲覧

都道府県別Well-Being指標活用団体

2024年6月6日現在

- 地域幸福度（Well-Being）指標活用団体はType2/3採択団体以外の団体にも拡大。

【都道府県別活用団体数】



【活用自治体85団体】

都道府県	数	活用団体（黒字：Type2/3採択団体, 青字：Type2/3採択団体以外）
北海道	4	札幌市 江別市 更別村 富良野市
青森県	1	むつ市
宮城県	2	仙台市 丸森町
福島県	5	福島市 会津若松市 矢吹町 三春町 平田村
茨城県	1	境町
栃木県	1	那須塩原市
群馬県	1	前橋市
埼玉県	4	熊谷市 秩父市 横瀬町 三芳町
千葉県	1	千葉市
東京都	6	東村山市 狛江市 品川区 渋谷区（スマートシティ推進機構） 世田谷区 国立市
神奈川県	3	横浜市 小田原市 鎌倉市
富山県	2	朝日町 黒部市
石川県	3	石川県 能美市 加賀市
山梨県	1	山梨県
長野県	2	茅野市 松川町
岐阜県	4	岐阜県 岐阜市 養老町 神戸町
静岡県	6	浜松市 三島市 焼津市 静岡市 磐田市 菊川市
愛知県	2	蒲都市 日進市
三重県	1	三重県広域連携（多気町・大台町・明和町・度合町・紀北町）
滋賀県	1	草津市
京都府	1	京都府
大阪府	2	大阪府 豊能町
兵庫県	5	姫路市 加古川市 加西市 養父市 猪名川町
奈良県	1	奈良県
鳥取県	2	鳥取県 飯南町
岡山県	6	津山市 備前市 西粟倉村 吉備中央町 井原市 真庭市
広島県	4	広島県 東広島市 尾道市 大崎上島町
山口県	3	下関市 山口市 山口県
香川県	2	高松市 三豊市
愛媛県	2	愛媛県 西条市
福岡県	1	粕屋町
大分県	1	別府市
佐賀県	2	佐賀市 伊万里市
長崎県	1	大村市
宮崎県	1	延岡市

出所：デジタル庁資料及びスマートシティ・インスティテュート資料からデジタル庁が作成

地域幸福度（Well-Being）指標利活用拡大に向けた取組（令和6年度）

- 令和5年度はデジタル田園都市国家構想交付金Type2/3採択団体職員に加え、その他自治体職員や事業者、団体職員もターゲットに幅広く事業を展開し、本指標の活用を70以上の自治体に広げることができた。
- 令和6年度はワークショップ開催を支援するファシリテーターの育成・派遣制度の構築や指標サイトへのアンケート機能の追加を実施し、地域での指標活用を更に推進する。本年度も指標活用に関する取組の裾野の拡大を進める。

令和6年度取組概要

ツール

- 地域幸福度（Well-Being）指標（客観指標・主観指標）
- 地域幸福度（Well-Being）指標サイト（アンケート機能等の追加）
- 利活用ガイドブック・分析ツール

普及促進

- モデルワークショップ開催（石川県）
- NPO・住民を対象とするワークショップ開催 **New**
- オンラインワークショップ型研修（全6回）
- ファシリテーター養成・派遣制度の構築 **New**
- 地域幸福度（Well-Being）指標活用解説動画
- 相談窓口の開設

ターゲット

- デジ田交付金Type2/3採択団体職員
- デジ田交付金Type2/3採択団体以外の地方公共団体職員
- 事業者
- 各種団体職員
- 住民 **New**

指標利活用拡大の具体的な取組内容

- NPO等の団体や住民まで対象を拡大し、本指標を活用したワークショップを提供する。ワークショップを通じ、指標の基礎的な知識を普及するとともに地域の課題やまちづくりの方針への共通理解を醸成し、データ活用によるまちづくりを体感していただく。
- 共助の取組推進に向けた自治体のワークショップ開催を支援するため、（仮称）Well-Beingファシリテーターを育成・派遣する。ファシリテーターが提供するワークショップ品質を保つため認定基準を設定し、基準をクリアした者を要望のある自治体に派遣。令和6年度秋頃の制度構築を目指す。

【NPO・住民を対象としたワークショップの開催】



【（仮称）Well-Beingファシリテーター養成講座概要】

開催時期	令和6年7月～8月
開催場所	全国2都市（東京都及び大阪府を予定）
対象者 （受講資格）	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Well-Beingファシリテーター」として、自治体等からの要請に応じて、地域幸福度（Well-Being）指標を活用した標準ワークショップの講師・ファシリテーターを担当することが可能かつその意欲のある者（他自治体への派遣が可能な自治体職員も可） ● 以下のいずれかの要件を充足している者 <ol style="list-style-type: none"> ①一般社団法人スマートシティ・インスティテュート／WBPD OASISプログラムの履修者（WBPD OASIS Practitioner） ②ワークショップの講師・ファシリテーターとして一定の実務経験を有していること
定員	60名予定（先着順）
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 専務理事 南雲 岳彦氏 ・慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任助教 山崎 真湖人氏
その他	本年度秋頃を目途に自治体からの要望に基づき派遣開始を想定

ロジックツリーの作成支援

- 地域のWell-Being向上に向け、地域幸福度（Well-Being）指標分析の結果から抽出された地域の課題分野と各分野の施策・取組の関係を政策効果の観点からロジックツリーに落とし込み、強化すべき施策の分析を行う活動を進める。
- デジタル田園都市国家構想交付金Type2/3採択団体に、デジタル庁が示すリファレンスロジックツリーを参照しながら、指定された分野の**ロジックツリーの作成協力を依頼**。
- 一部自発的にロジックツリーの作成に取りかかる団体も存在。

【自治体における作成手順（仮説）】

- ① 第1水準あるいは第1水準を含む領域の予算事業一覧や業務棚卸表等から約60事業まで絞り込み・洗出し
- ② 1、2回プレストMTG実施
- ③ 実現したい価値観やストーリーを明確化
- ④ ③で見出した価値観やストーリーを第2、第3水準と照らしあわせ
- ⑤ ④にフィットする重要な施策・事業を第4、第5水準にプロット
- ⑥ ⑤で仮置きしたツリーを俯瞰し、仮にKPIも選定する
- ⑦ 仮置きしたツリーを基に、各担当にも拡大しブラッシュアップ、完成
- ⑧ ステークホルダーが参加するワークショップを開催し、改善を継続

※留意点 既存事業の分類が目的にならないこと、行政が実施する事業だけにとられすぎないこと、丁寧なプレストが効果を高める可能性



写真：能美市での検討の様子

【ロジックツリー作成今後の流れ】

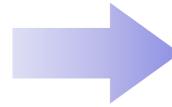
- ✓ 先行団体による検討実証（石川県能美市）
- ✓ リファレンスロジックツリーの追加を検討（防災分野）
- ✓ 実証結果等を踏まえ、支援環境を整えた上で秋頃を目途に説明会を開催し、全団体に作業依頼
- ✓ 各団体は年度末までに作成を完了させ、デジタル庁に提出。

分野	自治体名
医療・介護	札幌市、富山県朝日町、能美市、蒲郡市、養父市、備前市
モビリティ	更別村、境町、三島市
子育て	姫路市
防災	焼津市、山口市、大村市、延岡市
デジタル生活	会津若松市、前橋市、佐賀市
要相談	大阪府、広島県

ロジックツリーの作成・利用上の留意点



■ 分類学に走らない

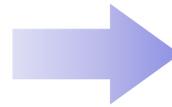


第2～3水準と第4～5水準の間を行き来しながら、
解決すべき課題（＝芯）を、まずはあぶりだす

- 組織の数だけ施策ができ、財政課が「（予算）枠」にはめ込むのがこれまでの標準的な政策企画。
- よくある「総合計画」は、「枠」の中をきれいに整理する「分類学」。公平な分配には有効か。
- 今必要なのは選択と集中。Well-Being指標も使い、「今解決すべき課題（＝芯）」を徹底的に議論。

➔ Well-Beingを一つの視点に、「公平な分配」から「選択と集中」に、頭を切り替える

■ 「芯」を喰った各論を探す



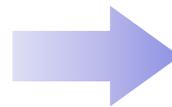
鍵となる取組と関連する施策群を選び抜き、
相互の因果関係をロジックツリーにする。

- 引き出された「今解決すべき課題」と関係性の濃い施策から、鍵となる取組（＝芯を喰った各論）をあぶりだし、それと関連の深い施策を選び抜く。市民独自の取組、これからの取組も対象として可。
- 鍵となる取組、関連施策間の因果関係と、それが生み出すインパクトを整理（＝ロジックツリー）。

➔ 課題を支える「芯を喰った各論」を探し出し、それを核にロジックツリーを作り出す

【ロジックツリー試作後の取組】

■ 「芯」を支える仕組みを作る



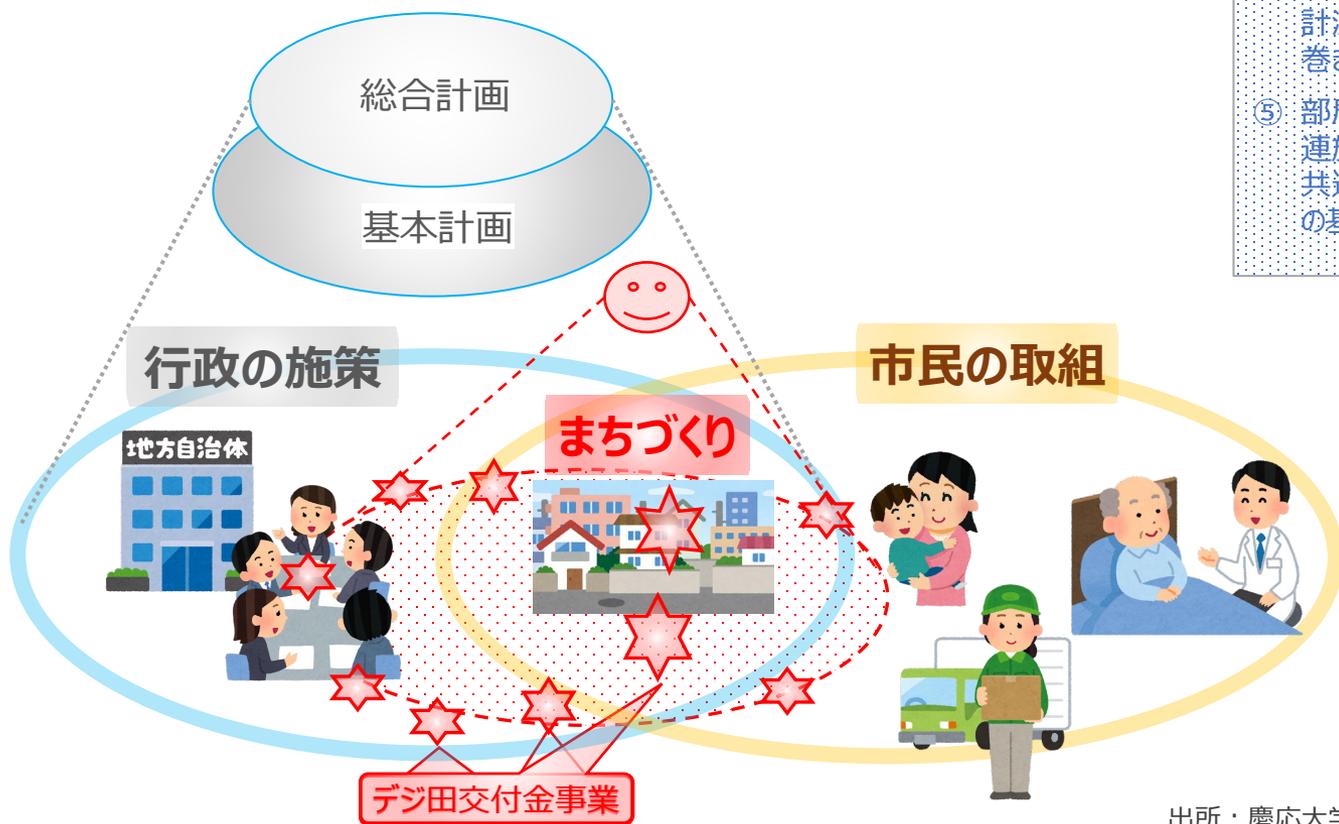
ツリーが明らかにした施策群に横串を刺し
互いに支え合う仕組みを作る。市民を巻き込む。

- 関係施策を持つ部局が縦割りの壁を超えて、浮き彫りにした因果関係を踏まえ施策を実行する。
- 因果関係に支えられた取組の輪に、他部局の行政官と市民の両方の参加（＝まちづくり）を引き出す
- 部局を超えて必要な事業群を支えるためのデジタルやモビリティなどのインフラや実施体制を整える。

➔ ロジックツリーを基に、必要な取組群に横串を刺す仕組みを考え、そこに市民を巻き込む。

ロジックツリー作りの進め方

- Well-Being指標などから導き出される解決すべき課題と、今ある市政の重点施策（デジ田交付金事業を含む）の間を、行ったり来たりしながら突き詰めると、「今、解決すべき課題＝芯」が徐々に明らかに。
- 今解決すべき課題及び関係の深い施策群（★）の間の因果関係を炙り出し、芯を喰った各論（施策群）をロジックツリーに落とし込む。
- まちづくりは、行政の施策と市民の取組の協同作業。ワークショップなどを通じ他部局の専門家や市民を取組の輪に巻き込みながら、ツリー自体も改訂しつつ、関係施策群や民間ベースの取組の具体化へ。



- ① 第1水準で与えられた医療、モビリティ等のテーマから数十程度の関係施策を抽出。
- ② リファレンスモデルの第1～3水準をみながら、抽出された関係施策のうち第4～5水準にフィットする施策を洗い出し、違和感がなくなるまで両者の行き来を繰り返すと、徐々に、本質（＝芯）が見えてくる。
- ③ 鍵となる取組が見えたら、その関連施策とともに、相互の因果関係を明らかにし、関係施策全体をロジックツリーに落とし込む。
- ④ ロジックツリーの各項目にKPIを設定し、その計測体制を整えるとともに、内外の関係者を巻き込みながら、施策を実行に。
- ⑤ 部局横串にして関係者を更に巻き込み、関連施策を有機的に回すための体制作りや、共通のデジタルツール、モビリティサービスなどの基盤作りにも、徐々に着手。

施策に、
市民を巻き込み
社会実装へ

Appendix

2024年@月@日

政策検討支援ツール

「リファレンスロジックツリー」

活用ガイド

デジタル庁

本報告書の目次

	内容	スライド
1	はじめに（リファレンスロジックツリーの目的）	P.2
2	ロジックツリーとは <補足資料>	P.3
3	リファレンスロジックツリーの見方	P.4
4	各自治体での検討のヒント	P.5
5	【医療・介護環境の改善編】	P.6
6	【未就学子育て編】	P.7
7	【モビリティの維持・向上による生活環境の改善編】	P.8
8	別添資料「指標カタログ」*の構成	P.9

リファレンスロジックツリーの狙い

1. 経緯

これまで、デジタル庁では、デジタル田園都市国家構想実現交付金Type2/3の交付団体に対して、Well-Being指標に基づく地域の課題抽出作業の実施を強く推奨し、これまでに70以上の自治体で、実際に取り組んでいただきました。

この作業は、広く市民を巻き込み地域が不得手としている取組分野を明らかにする上で一定の効果を発揮しました。しかし、その分野の取組の強化に向け、どの施策が効いているのか、新たにどんな施策が必要なのか、個々の具体的施策レベルでの分析を行うには、まだ十分ではありません。

このため、令和6年度のデジ田交付金事業では、これまでお願いしてきたWell-Being指標に基づく分析に加え、その分析の結果明らかになった強化すべき政策分野に関するロジックツリーの試作を推奨することとし、そのための作業のひな形を作成・公開することとなりました。

2. 取組の内容

ロジックツリーの取組初年度となる本年度では、頻繁に課題となる3つの政策分野を取り上げ、リファレンスロジックツリーを作成しました。同ツリーは、各分野において標準的に必要となるアウトカムをトップダウンで整理し、それに対して各自治体が行っている施策をボトムアップ型で貼り合わせてみることによって、政策分野ごとの施策の十全性を評価しようとするものです。具体的には、以下三つの課題の解決を念頭に置いて作成いたしました。

- ① Well-Being指標に基づく課題感と具体的な施策の間の因果関係を整理する。これによりWell-Being改善に資する具体的施策を特定し、WB改善に向け必要な施策の強化につなげる。
- ② 従来の政策評価の中で、施策毎に設定されきたアウトカムについて、部局をまたいだ関係施策の因果関係を明らかにし、施策間の相乗効果やトータルなインパクトを明らかにする
- ③ 政策分野レベルでの抽象的な課題感を、施策次元の具体的な取組の議論に結びつけることによって、施策立案に対する市民の当事者感、自分事化感の定着・加速を図る。

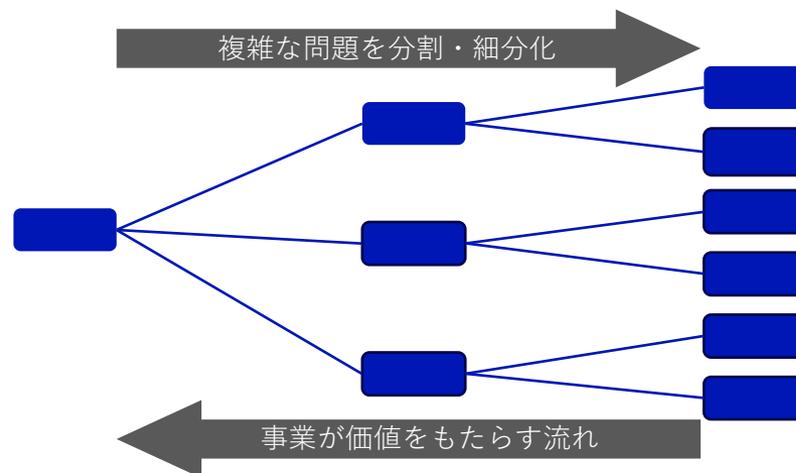
ロジックツリーとは <補足資料>

ロジックツリーとは、問題解決や意思決定を行う際、その思考過程を構造的に見える化する手法です。複雑な問題をより扱いやすいサイズに分割・細分化し、それぞれに対する解決策や行動計画を段階的に検討していく作業に、非常に有用な思考ツールです。

ロジックツリーでは、各事業が価値をもたらす流れ（右から左への「ある事業を行うことによって、このような目的を満たす／このような成果をもたらすことができる」というストーリー）が図式的に表現されるため、各施策に関与する市民や事業者などが、最終的な施策のゴールと、関連する諸施策との関係について共通理解を醸成し、それぞれが納得して実現に向け取り組むこと（自分ごと化）がしやすくなります。

また、抽象的の高い大きな課題感や目指すべきゴールを、それを構成する個別の課題や関係する取組に分割・細分化していく流れ（左から右への「解決したい問題（あるいは目指す目的）を達成するために必要な取組を明らかにする）が表現されるため、ゴールの達成に向け強化が必要な取組を特定したり、各取組のゴールへの貢献度などの効果測定を行うためにも、有効なツールとなります。

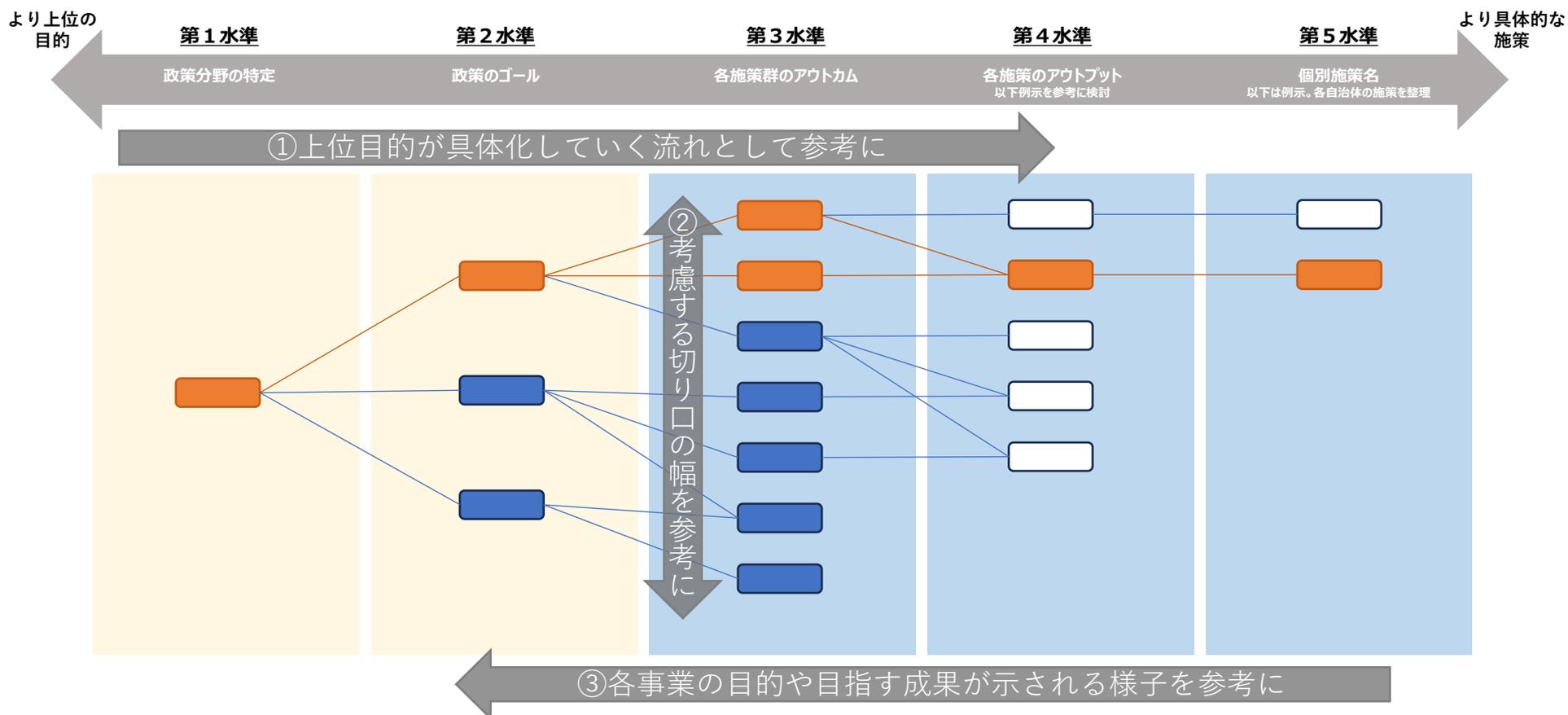
<イメージ>



リファレンスロジックツリーの見方

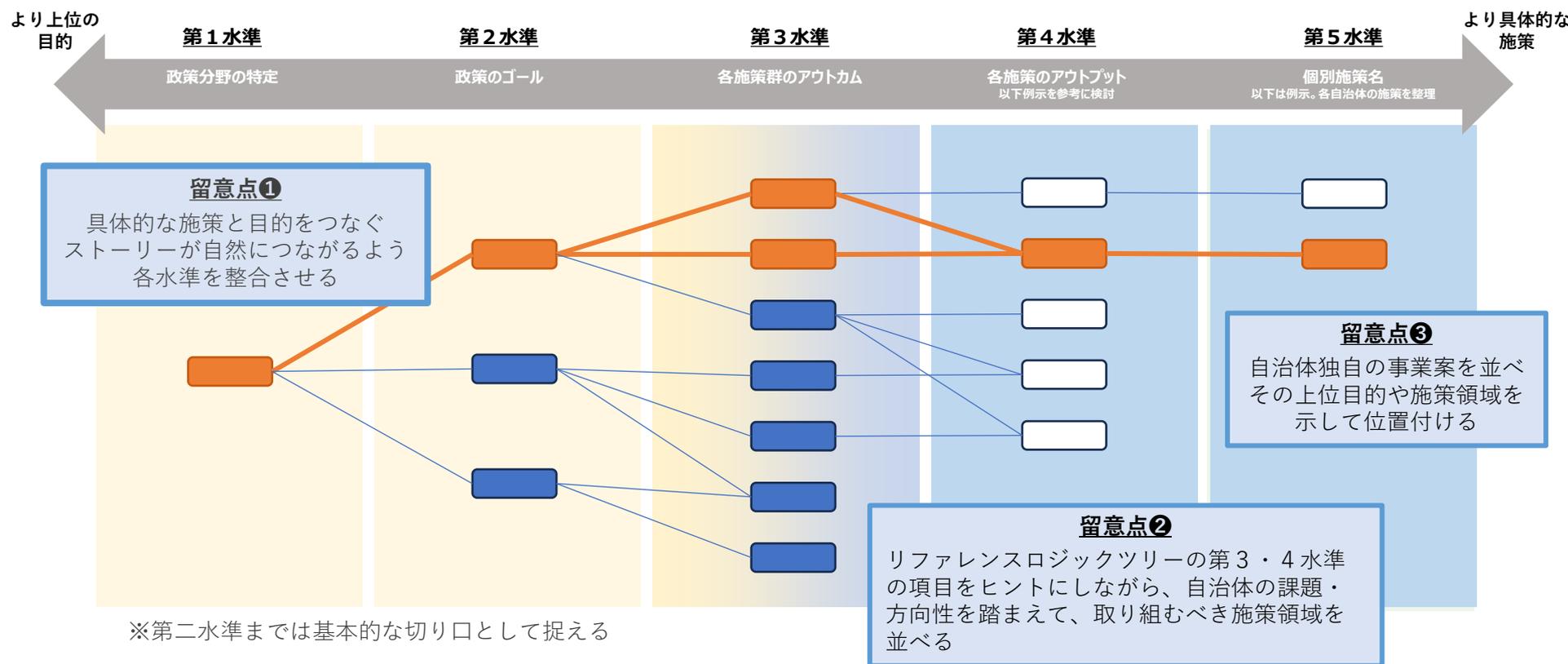
本ツール（リファレンスロジックツリー）は、ロジックツリーの考え方を活用し、各自治体でまちづくり施策の検討を行う際の参考となるように作成したものです。

以下、①-③の観点から参考にしてください。

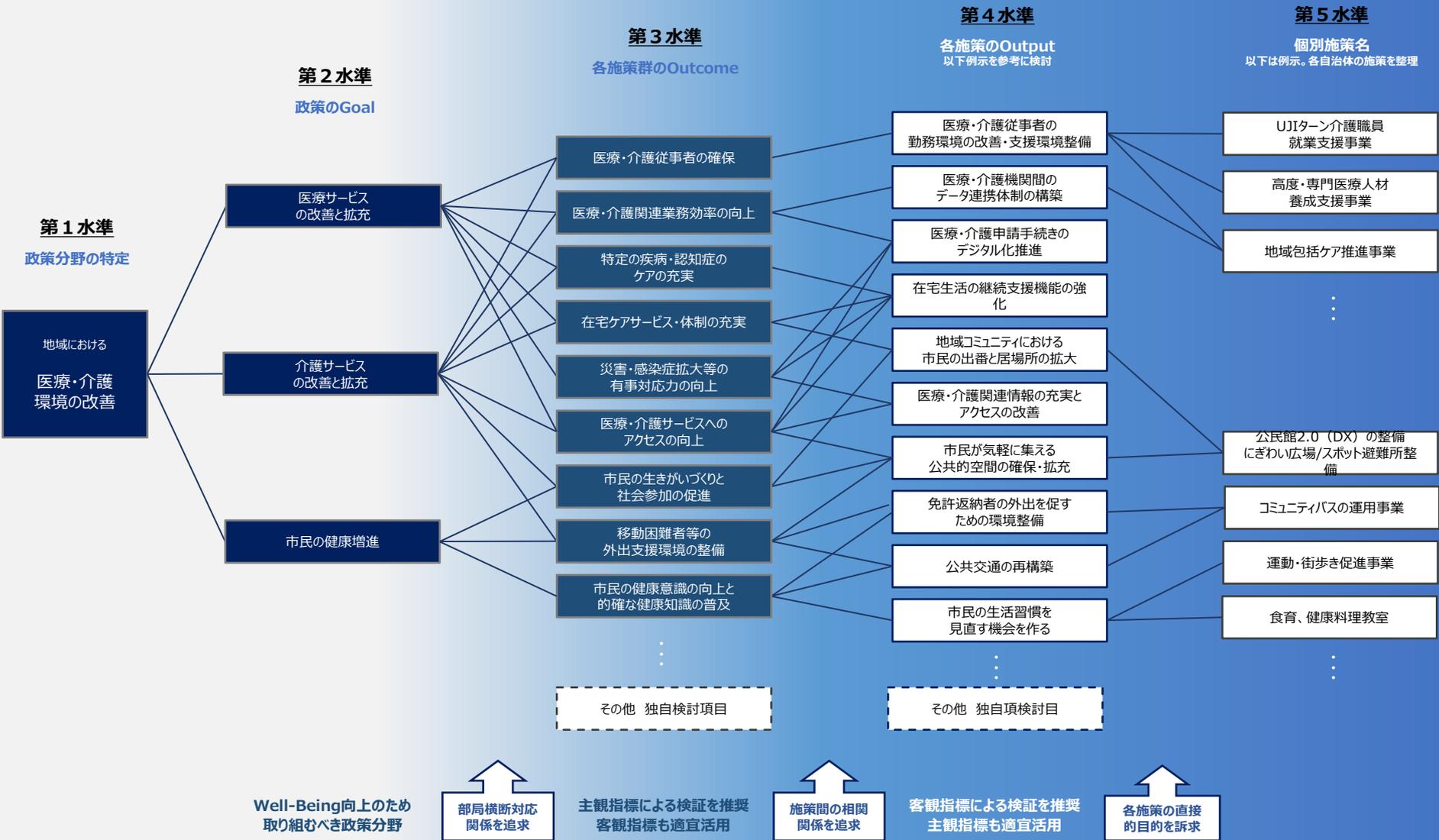


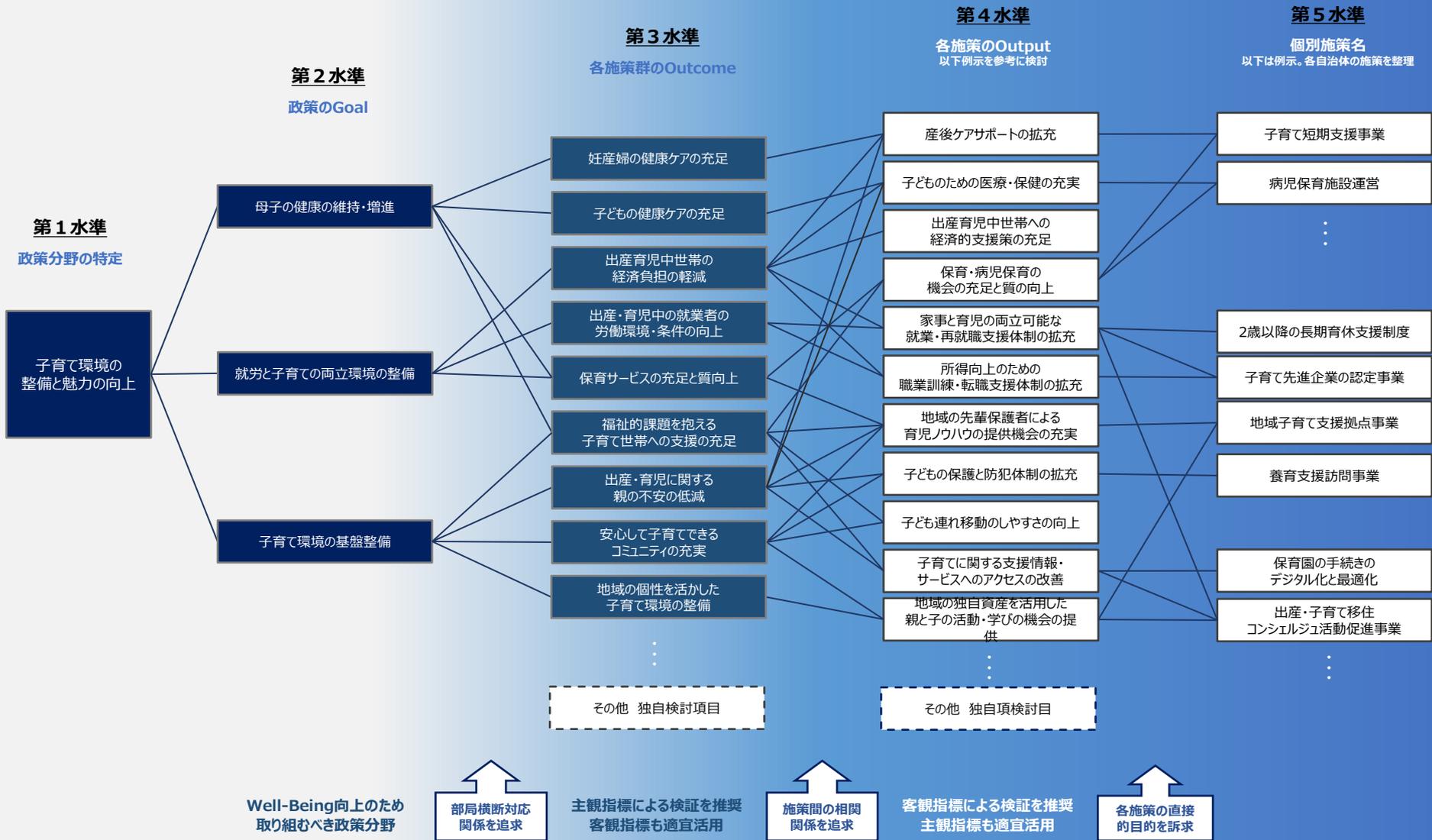
各自治体での検討のヒント

各自治体でロジックツリーを検討する際に、このリファレンスロジックツリーをヒントにしてください。リファレンスロジックツリーの第3水準までを、各上位目的を実現する際の基本的な切り口の幅を示すものと捉えてください。第4水準以降は、以下の留意点①～③を踏まえて自治体独自の施策領域や個別施策を検討してください。また、第4水準の内容に応じて、第3水準を見直してください。

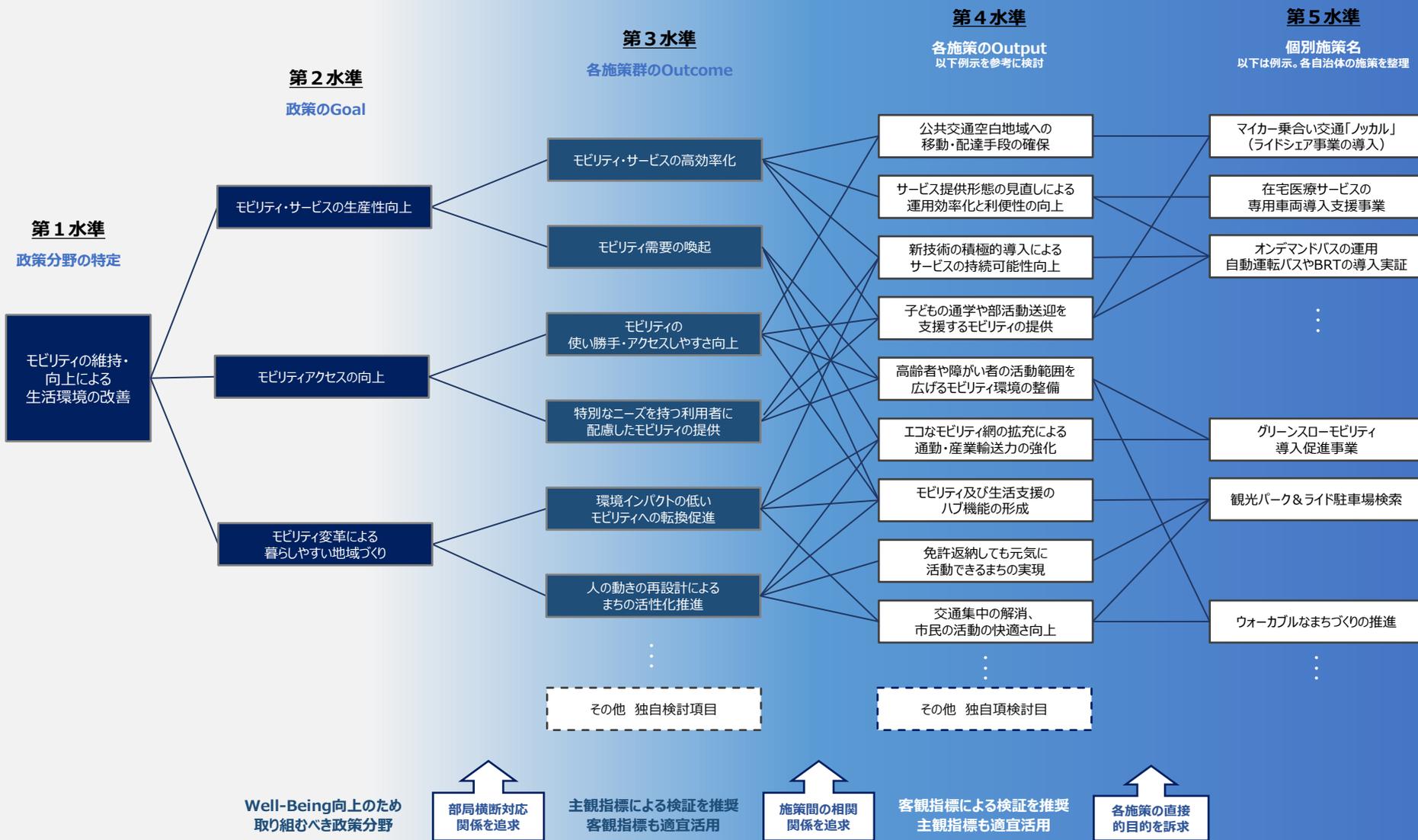


リファレンスロジックツリー 【医療・介護環境の改善編】





リファレンスロジックツリー【モビリティの維持・向上による生活環境の改善編】



リファレンスロジックツリー「指標カタログ」*の構成

- リファレンスツリー「指標カタログ」は、例示した各テーマについて、第1位水準～第3水準までの各項目について、主観と客観の両側面から評価するKPI指標を提案するものです。
- 基礎自治体において利用しやすいように、定期的に市町村単位で統計数値が開示されている指標を中心に推奨しています。

※LWCI主観指標、LWCI客観指標、自治体によるLWCI独自設問集（非公開）を中心に選定

- 指標カタログは、「階層名」、「項目」、「解説」、「指標の種類」、「指標」、「推奨度」、「出典」、「（推奨の）補足説明」から構成されています。

例) レファレンスロジックツリー「医療・介護編」の指標カタログ（第一水準の抜粋）

階層名	項目	解説	指標の種類	指標	推奨	出典	補足説明
第1水準	地域における医療・介護環境の改善	医療・介護の観点から、市民および従事者らの地域生活の質を高めることを検討する	主観	私は、身体的に健康な状態である	◎	LWCI 主観指標	地域における生活の質を向上させる観点から、これら主観指標が満たされる状態を目指すことを推奨しています。
			主観	私は、精神的に健康な状態である	◎	LWCI 主観指標	
			客観	人口あたり国保医療費 (-)	◎	LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	地域における生活の質を持続的に維持・向上させるため重要な指標を推奨しています。
			客観	人口あたり後期高齢者医療費 (-)		LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	
			客観	非難・救助（自然災害）		LWCI 暮らしやすさ客観指標 市区町村版	

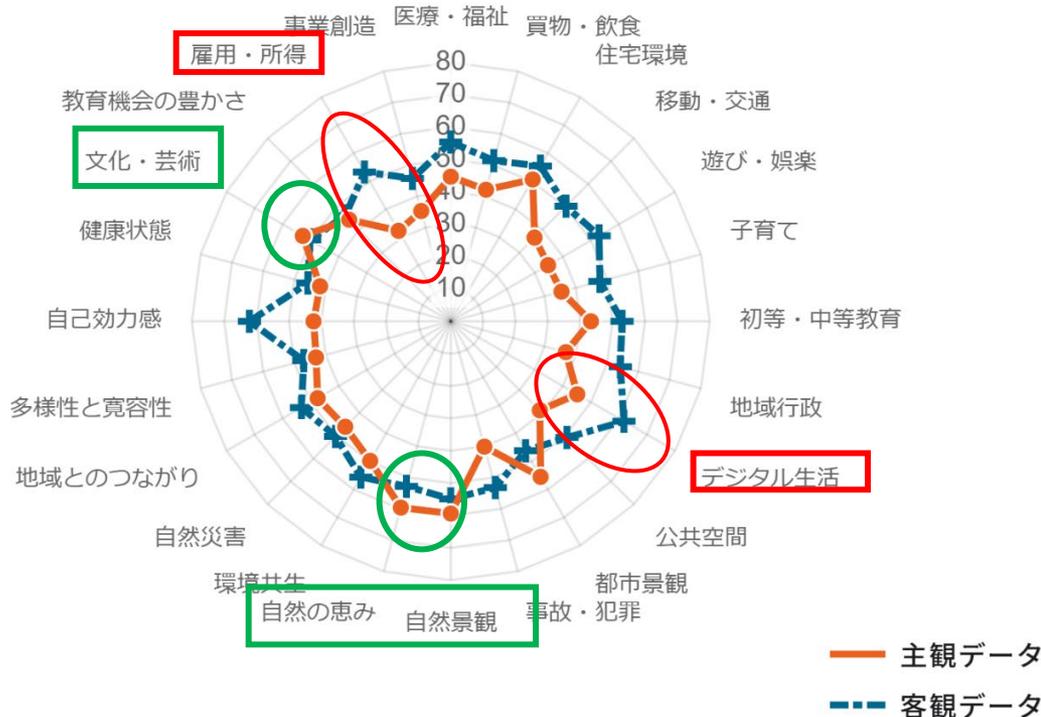
【注】指標カタログは、リファレンスロジックツリーの各水準に対応し得る推奨指標を掲載していますが、地域における政策構想、地域実態、計測可能性等を加味して適切に検証するための指標を設定してください。

**地方公共団体における
地域幸福度（Well-Being）指標活用事例**

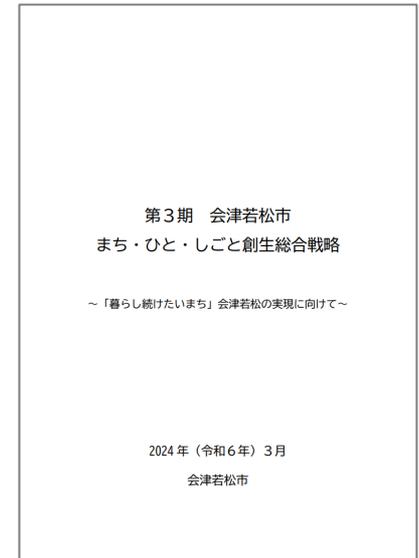
（事例） 地域幸福度（Well-Being）指標活用（会津若松市）

- 会津若松市では2013年から「スマートシティ会津若松」の推進を表明し、様々な分野でICTやデジタル技術を活用する取組を推進してきた。
- 会津若松市は、地域幸福度（Well-Being）指標の「デジタル生活」や「雇用・所得」の客観指標が高いのに対し、主観指標が50を下回っている。乖離の幅が大きい場合、市民の実感や評価が伴っていない可能性を表していると捉えている。
- 一方で、「自然景観」「自然景観」、「文化・芸術」の категорияについては主観指標が客観指標を上回っており、会津若松市の市民が地域の景観や自然、文化・芸術について一定の評価をしていることが覗える。
- 地域幸福度（Well-Being）指標はカテゴリー毎に地域の個性や強み・弱みだけでなく、市民の実感を数値で把握することができることから、「第3期 会津若松市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、KPIに加え、事業効果の検証を行うツールとして、地域幸福度（Well-Being）指標を位置付け、活用していくこととしている。

【会津若松市のレーダーチャート】



【指標の活用事例】



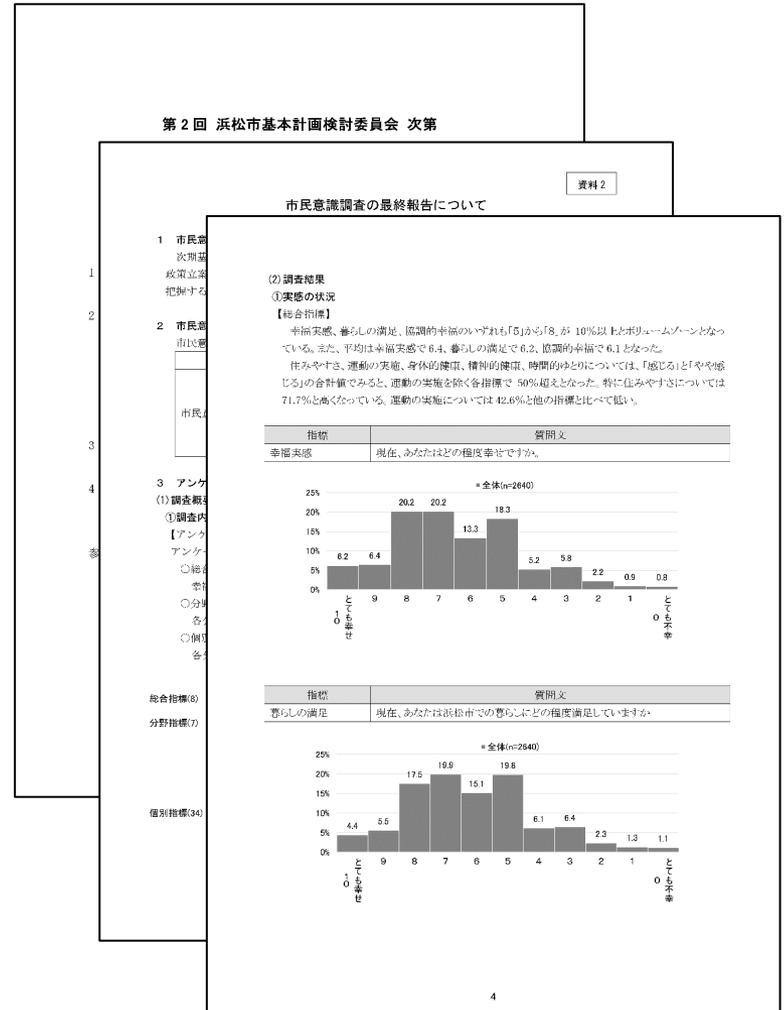
(事例) 官民連携組織での取組と基本計画の策定 (静岡県浜松市)

- 職員研修で指標活用について理解を深め、官民連携組織浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム等でのワークショップ開催を通じ地域の事業者の巻き込みや、はままつWell-Beingアワードで事業者の取り組みを後押し、市民のWell-Being向上に向け実績を積上げ。
- ウェルビーイングの視点を取り入れた、市民が幸福を実感できる総合計画基本計画を策定中。

【官民連携組織で指標を活用したワークショップを開催】



【総合計画基本計画の検討】



【はままつWell-Beingアワードの創設】



デジタル庁

Digital Agency